

経営比較分析表（令和3年度決算）

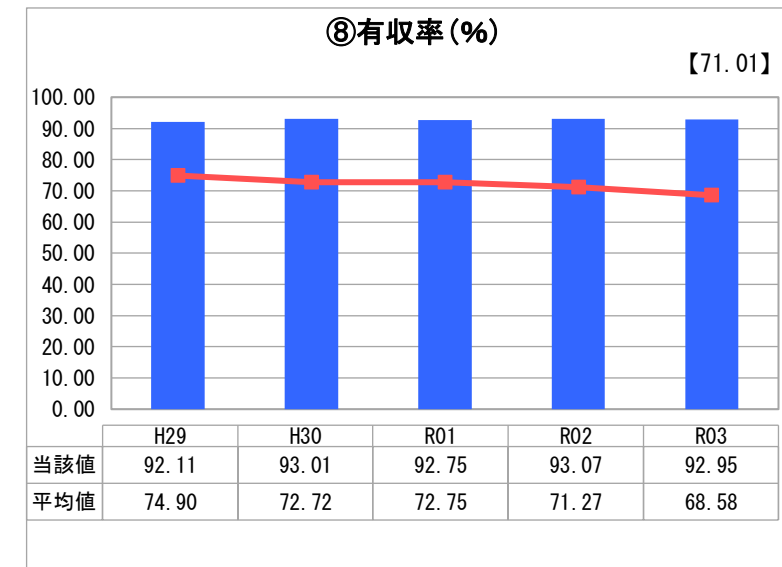
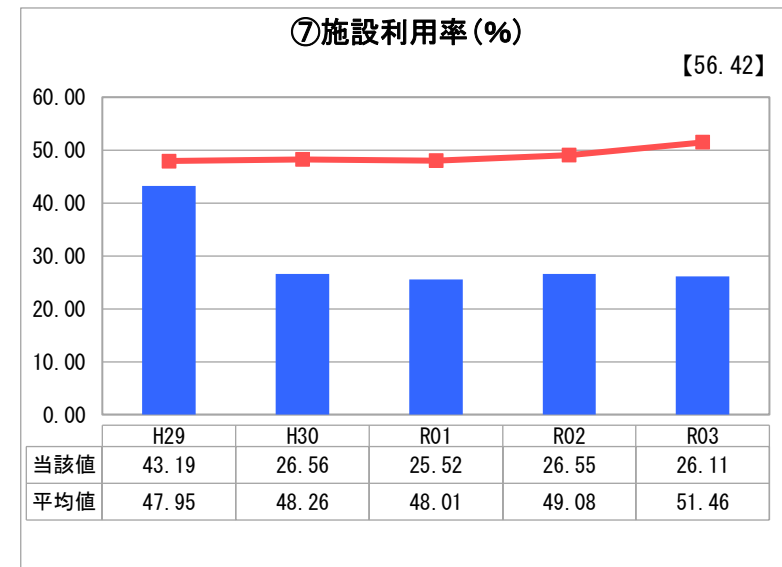
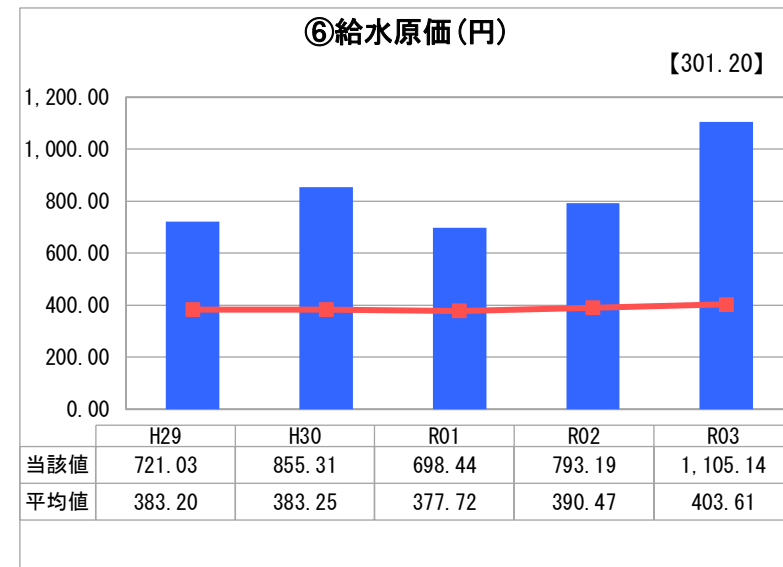
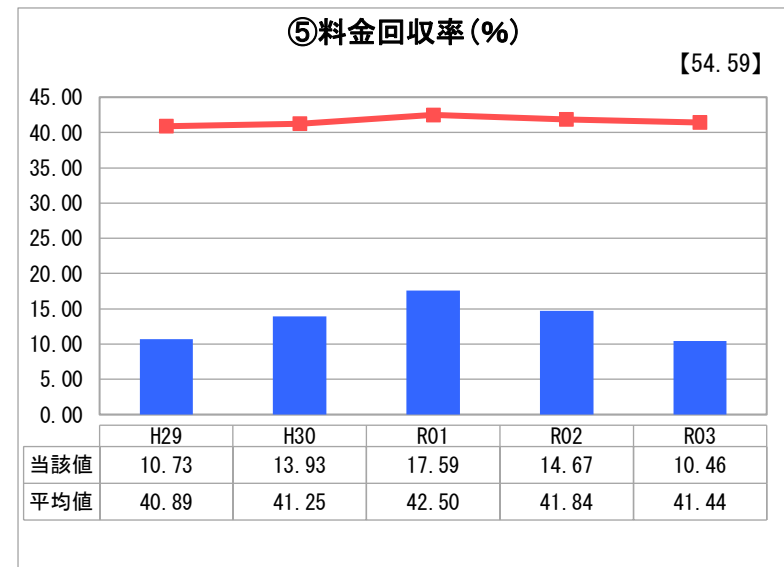
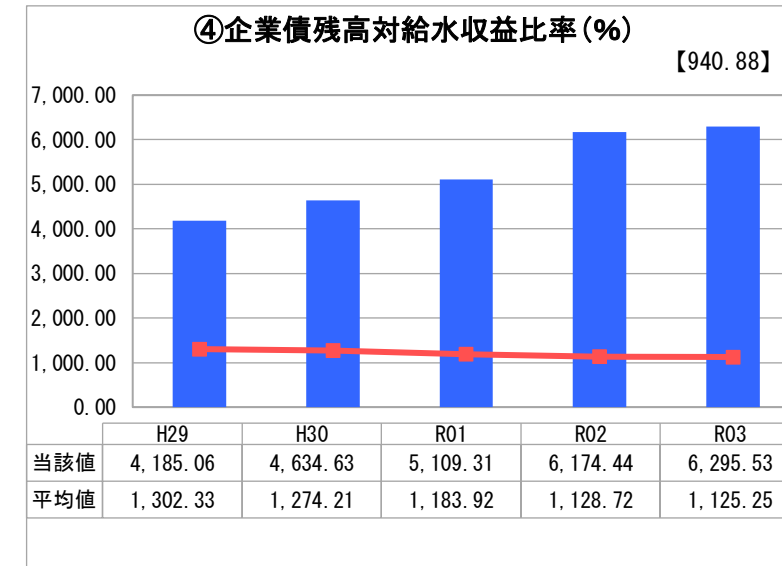
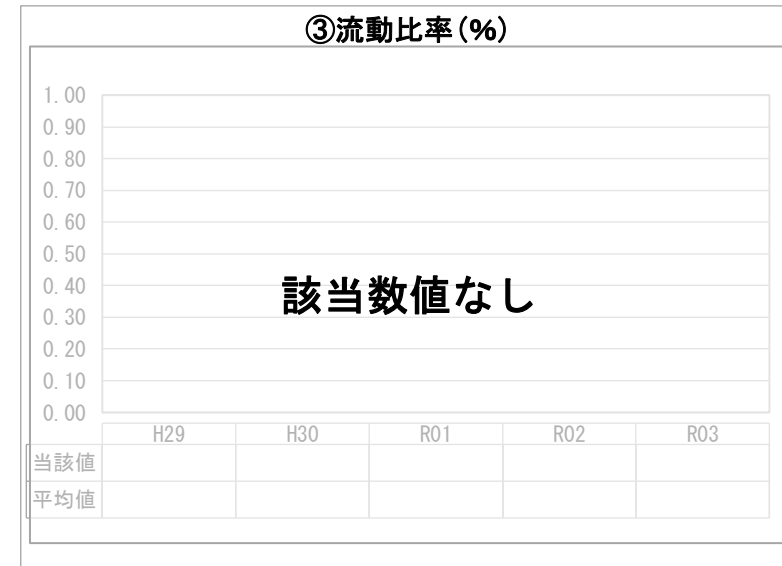
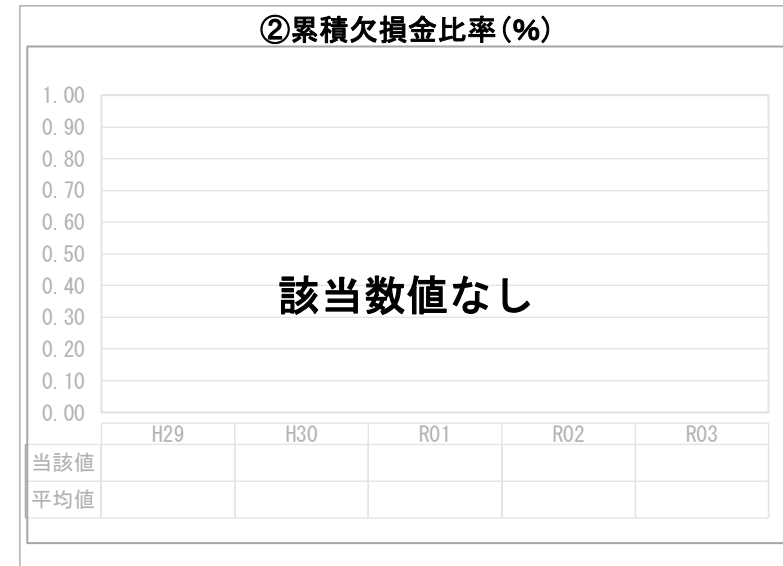
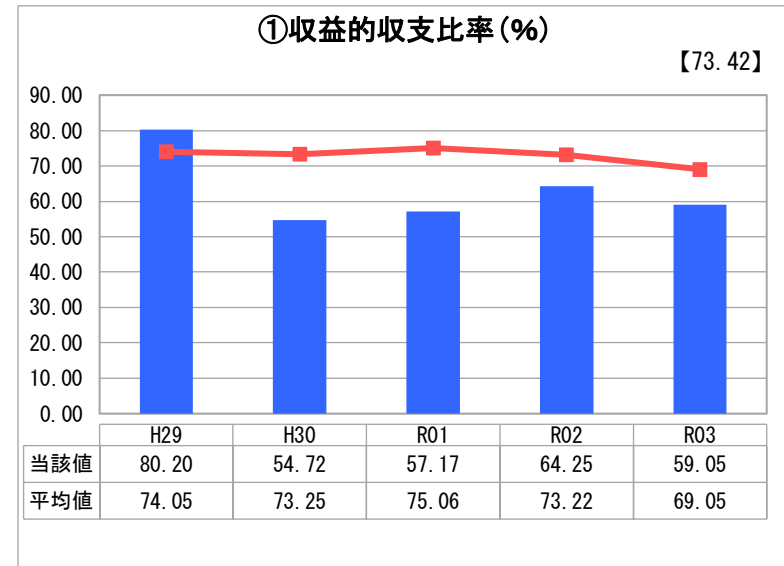
奈良県 野迫川村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	100.00	1,320	

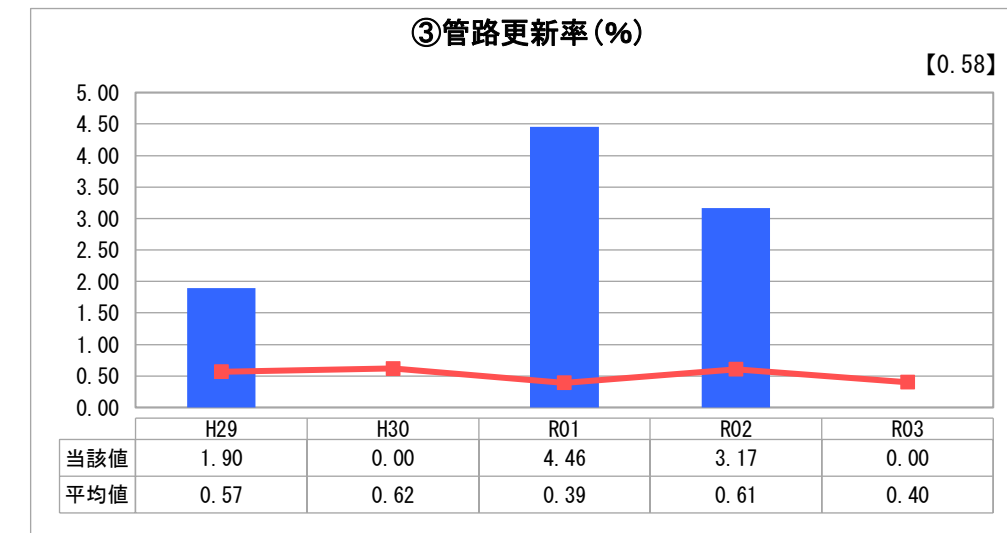
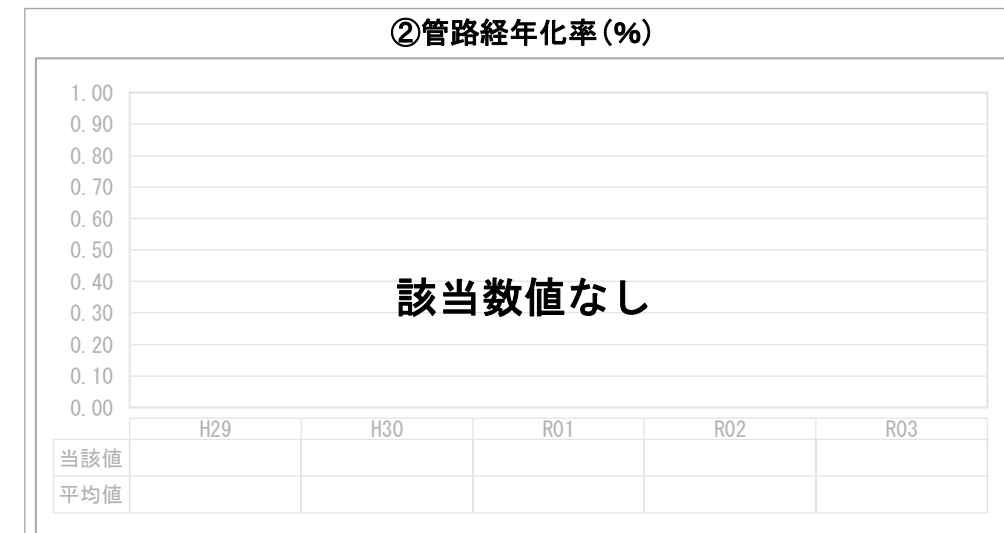
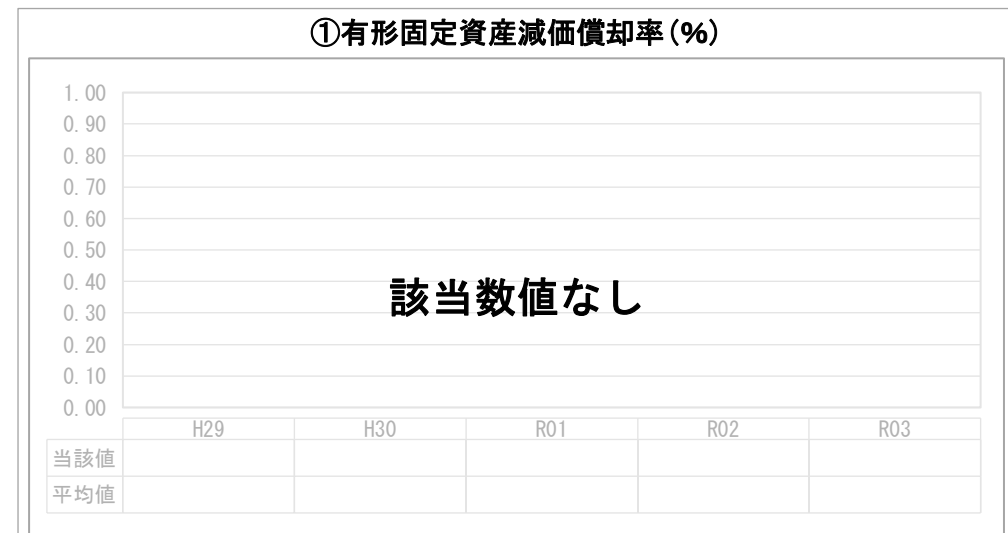
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
347	154.90	2.24
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
346	0.67	516.42

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当村は10の緩速ろ過施設、1つの膜ろ過施設で給水を行っている。昭和56年から平成17年にかけて改修を行ったため、支出の大部分は償還金となっている。平成29年に一地区で管路の更新、平成30年度から令和2年度にかけてさらに一地区で管路更新の測量及び工事を行った。その費用のため起債も増加している。また、地理的条件も厳しく、年々人口が減少しており、水道料金のみで運営することが難しく、一般会計からの繰入金で経営している。

2. 老朽化の状況について

ろ過施設・管路は老朽化しており修繕だけでなく更新が必要であり、今後も費用の増加が見込まれる。

全体総括

今後施設の修繕・更新の費用が村内の大半で必要となることから、人口減少しているが料金収入を上げることを検討する必要があると考えられる。